

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字の意味を押さえ、既習の漢字を普段の生活の中で使うよう指導したり、タブレットで繰り返し読み書きの練習をしたりしたことで、正答率が目標値に近付いたり上回ったりした学年があった。

(2) 課題

- ・指定された構成や文字数で書く問題や自分の考えを明確にして書く問題の正答率が低く、文章を書くことに課題が見られた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	問題全体の校内正答率は、前年度よりも3.4ポイント下がった。主に記述問題が大きく目標値を下回っている。領域別にみると、言語事項、読むこと、書くことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。		
第5学年	問題全体の校内正答率は、前年度よりも1.4ポイント上がった。領域別にみると、言語事項、読むことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。	「知識・理解(漢字)」「思考・判断・表現(書くこと)(読むこと)」は、目標値を下回っている。それ以外の項目は、目標値を上回っている。(第4学年時)	
第6学年	問題全体の校内正答率は、前年度よりも0.9ポイント下がった。ただし、今年度の目標値よりも0.5ポイント上回っている。領域別にみると、言語事項、書くことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。	「思考・判断・表現(読むこと)」は目標値を上回っている。それ以外の項目は目標値を下回っている。(第5学年時)	「書く能力」では目標値を下回っているが、それ以外の項目は目標値を上回っている。(第4学年時)

(2) 分析(観点別)

各問題の正答率や誤答の状態を基に行った分析は、以下の通りである。

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・短文から主語と述語を選び出す問題では、主語は正しく選択できているが、述語の選択が誤っている場合と、述語は正しく選択できているが、主語の選択が誤っている場合とが、誤答のそれぞれ半数を占めている。これらのことから、主語と述語の意味について、学年全体が十分に理解していないことが考えられる。	・叙述を基に文章の内容を捉える問題では、問題となる文と同じ段落にある正答の文に気付かず、その直近にあるが、誤答になる文を選択してしまう場合が多くみられる。これは、文頭や文末の表現及び接続詞に着目して判断できていないことや、段落および文章全体の概要を把握できていないことによるものと考えられる。	・自分の考えを、注意点を守って文章で書く問題では、解答を記述しているが誤答となっている割合が非常に低く、無解答の割合が全体の半数を占めている。このことから、文章を書く際に書くべき内容や伝えたいことを明確にできないなど、見通しをもつことができず、粘り強く学習に取り組むことができていないことが考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4学年に配当されている漢字を正しく書く問題のうち、「改める」については、「新」を書いていたたり、送り仮名を誤っていたりしている場合が多いため、ある程度覚えていても、正確に想起できていないことが考えられる。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> 敬語の使い方に関する問題では、「食べる」の謙譲語(いただく等)を記述する問題が出題されている。誤答の内容は不明であるが、無解答の割合が低いため、「召し上がる」等の尊敬語を回答していたり、「食べます」等の丁寧語を解答していたりすることが考えられる。 	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちについて、叙述を基に考える問題では、直近の文中で用いられている言葉が正答に含まれていることを捉えられていないことが考えられる。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて簡単に書き表す問題では、資料に示されている情報を基に、必要な内容を盛り込んで記述できていない場合が多いため、正答に必要な情報が何か、捉えられていないことが考えられる。 	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き取った内容を基にして、自分の考えをまとめ、表現する問題では、解答を記述しているが誤答となっている割合が非常に低く、無解答の割合が高い。このことから、必要なことを落とさずに聞き取り、そのことを基にして記述するなど見通しをもつことができず、粘り強く学習に取り組むことができていないことが考えられる。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを、注意点を守って文章で書く問題では、解答を記述しているが誤答となっている割合が非常に低く、無解答の割合が高い。このことから、文章を書く際に書くべき内容や伝えたいことを明確にできないなど、見通しをもつことができず、粘り強く学習に取り組むことができていないことが考えられる。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1)低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業で漢字ドリルやタブレットの「ドリルパーク漢字ドリル」を活用させ、引き続き漢字の定着を図る。 物語文の内容や場面を捉える学習活動等において、「この場面は、だれが何をした場面か」と発問し、主語・述語について友だちと確認させるなど、主語と述語の関係に気付かせる。なお、第2学年で主語と述語について学習した後は、主語・述語という文言を用いて、上述の学習活動に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や登場人物の言動、気持ちの変化について捉えさせる等の、物語文での学習活動において、文頭や文末の表現及び接続詞に着目させて登場人物の様子を捉えさせたり、繰り返し音読して、段落および文章全体について、イメージをもたせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えをよく聞き、それに対する自分の考えや感想をもちながら話ができるようにする。 単元の終わりに学習の振り返りや感想を書く機会を設け、自分の考えを文章に書いて表現する経験を積み重ねさせる。

(2)中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業で、漢字ドリルやタブレットを活用して繰り返し復習したり、漢和辞典を必要に応じて活用させたりして、漢字の定着を図る。 短文作りでは主語と述語が対応する 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の要旨に対する自分の考えや、物語文の主な登場人物に対する感想など、定期的にまとめた量の文章を書く学習活動を、年間を通じて設定する。また、実際に書かせる 	<ul style="list-style-type: none"> 単元や内容のまとめりにおける課題を解決する中で、グループワークを取り入れて課題に対する考えをまとめさせるなど、児童が自分達で課題を解決する経験を積み重ねさせ

<p>ように書かせる。また、どのような言葉が修飾語や被修飾語に当たるのかを確認し、主語と述語だけではなく修飾語、被修飾語に対する理解も深めさせる。</p>	<p>活動の際には、以下のような学習活動も組み合わせる。</p> <p>ア 考えの根拠となる文にサイドラインを引かせて、必要に応じて引用させるなど、考えの根拠となる表現を明確にさせておく。</p> <p>イ 作成する文章に応じた内容を提示して作文させるなど、書く内容を指定した文章作成に慣れさせる。 (例：1段落目 心に残る出来事、 2段落目 その理由)</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間や単元の終わりに「分かったことや、まだ分からないこと」を確認させるなどについて、学習の振り返りや感想を書く機会を設け、自分の考えを文章に書いて表現する経験を積み重ねさせる。
---	---	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習では漢字ドリルやタブレットの「ドリルパーク漢字ドリル」で復習する時間を設け、定着を図る。また、児童に家庭学習等において漢字を身に付けるための効果的な学習方法について考えさせる。さらに試行を繰り返す中で、漢字の定着に最も有効な方法を見出させる。 ・既習の漢字や、それらを用いた熟語については、各教科での学習活動や、連絡帳の記述等で確実に用いさせるなど、日ごろの文章を書く活動において漢字を活用できるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の学習では気持ちを表す言葉を授業で取り上げて、文章を読み取ったり書いたりする際に確認する。 ・説明文の要旨に対する自分の考えや、物語文の主な登場人物に対する感想など、定期的にまとまった量の文章を書く学習活動を、年間を通じて設定する。また、実際に書かせる活動の際には、以下のような学習活動も組み合わせる。 ア 考えの根拠となる文にサイドラインを引かせて、必要に応じて引用させるなど、考えの根拠となる表現を明確にさせておく。 イ 2段落構成で書く、限られた行数や文字数で書くなど、作成する文章に応じた条件を提示して作文させるなど、指定された書き方に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間や単元の終わりに「分かったことや、まだ分からないこと」を確認させるなどについて、学習の振り返りや感想を書く機会を設け、自分の考えを文章に書いて表現する経験を積み重ねさせる。その際、タブレット端末を活用させて、書く活動への抵抗感を低減させる。